

2022年度 学校法人 滋慶学園 札幌ベルエポック製菓調理ウエディング専門学校 学校関係者評価委員会 会議資料

2022年度自己点検自己評価(2021年4月1日～2022年3月31日)

大項目	点検・評価項目	自己評価	評 価	自己点検・自己評価項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)
		優れている…3 適切…2 改善が必要…1	優れている…3 適切…2 改善が必要…1		
1 教育 理念・目的・育 成人材像	1-1 理念・目的・育成人材像は定められているか	3	3.0	☐ 実学・人間・国際教育の「建学の理念」及び、「4つの信頼」として学生・保護者、高等学校、業界、地域の4つの対象者からの信頼獲得を目指しており、周知方法として、学外に向けてはHP,学校案内等、学生へは教育指導要領に明記して周知を図っている。	☐ 理念、目的、育成人材像について定めており、会議・研修等で学園内での浸透を図っている。
	1-2 育成人材像は、業界などの人材ニーズに適合しているか	2	2.8	☐ 各科業界から講師を招いている。また企業や地域連携の取組みを積極的に展開している。 教育課程編成委員会での意見を参考に人材ニーズに合致したカリキュラムを構築している。	☐ 学生、業界双方のニーズを捉え、常にイノベーションをしている。引き続き企業連携、地域連携に更に力を入れて取組んでいきたい。
	1-3 特色ある教育活動に取り組んでいるか	3	3.0	☐ 「業界直結の体験を通した学び」が特色であり、具体的な教育プログラムとしては、「特別授業」「産地見学(お出かけ授業)」「ディスカバリープログラム」を展開している。	☐ 産学連携の学びをフローで構築している。 学生に様々な「一流のプロとの出会い」を提供する事で刺激を感じてもらえるプログラムにしている。
	1-4 学校の将来構想を抱いているか	2	2.6	☐ 学校運営の計画については、5年先を見据えた計画(5ヵ年計画)のもと、単年度の事業計画を策定している。	☐ 2023年4月から美容校との校舎統合し、運営効率を高めるとともに、新しい価値(顧客)の創造をしていきたい。
2 学校 運営	2-5 運営方針は定められているか	3	3.0	☐ 事業計画に基づき、運営方針を文書化し「理念」「目標」「計画」を明確に文書化し、周知、浸透の機会を常に設けている。 ・文書としての配布。 ・全体研修等での周知と理解度確認を実施。 ・事業計画進捗状況チェック。	☐ 研修、会議(分野戦略会議・運営会議・全体会・学科会議等)で運営方針の確認を行い、学校運営に携わる環境作りをしている。職場環境内でのコミュニケーションの向上を目指し、全ての職員の意見をしっかりと聞く体制づくりをさらに強化していく。
	2-6 事業計画は定められているか	3	2.9	☐ 中期計画(3～5年程度)を定め共有している。 ☐ 単年度計画も明確に定められている。 ☐ 事業計画に予算、事業目標等を数値で明示。 ☐ 事業計画の執行体制においては、「組織役割表」設定し明確化している。 ☐ 執行・進捗管理状況は運営会議で「毎月1回」確認を行ない、事業計画は「半年」を目安に(予算等の)見直しの機会を設けている。	
	2-7 設置法人は組織運営を適切に行っているか	3	2.8	☐ 理事会、評議員会は寄付行為に基づき適切に開催しており、いずれも必要な審議と議事録が作成されている。また、寄付行為については改定の機会が設けられている。	
	2-8 学校運営のための組織を整備しているか	2	2.3	☐ 学校運営に必要な組織体系を整備し、それぞれの部署で役割の明確化もなされている。事業計画にこの役割表は明示され、全教職員に周知している。	☐ 事業計画に学園・学校の組織図、職務分掌を明記し、それに応じた組織運営を行っている。
	2-9 人事・給与に関する制度は整備されているか	2	2.1	☐ 採用基準・採用手続きいずれも明確に規定されている。 ☐ 常に能力ある人材の確保については継続しているが、理想に合致した採用計画の遂行と維持には困難を感じる。 ☐ 給与支給等に関する基準・規程を整備し、労働条件通知書をもって明確化している。 ☐ 昇任・昇給の基準を「目標管理制度」として明確化している。 ☐ 評価システムを規定し、数値目標での評価と情意効果の両面で評価している。	☐ 採用に関しては各学校の組織上必要な人材を採用するとともに、将来を考慮した育成人材を採用している。

3 教育活動	2-10 意思決定システムは確立されているか	2	2.3	☐ 組織の意思決定に関わる会議を実施している。 ☐ 対面での会議、研修に加え、オンラインでの会議、研修も実施している。	
	2-11 情報システム化等による業務の効率化が図られているか	2	2.3	☐ 学生に関する情報管理システムは関連企業が保守管理する業務システムにより管理している。 Microsoft teamsを導入し、業務の効率化を図っている。 ☐ 学生個々の重要な個人情報に伴うので、専用プリンターの設定やアクセス権限に制限を設けているが、要求に応じて出力できる体制がある。 ☐ iPadによる出席管理システムを導入している。	DX推進委員を選定し、今後のICT教育の浸透を図る。
	3-12 各学科の教育目標、育成人材像は、その学科に対応する業界の人材ニーズに向けて正しく方向付けられているか	3	2.7	☐ 各学科の教育目標、育成人材像は、その学科に対応する業界の人材ニーズに向けて正しく方向付けられている。 ☐ 各学科の教育目標、育成人材像は、毎年業界のニーズを反映させるため、業界調査、学科調査、競合校調査、教育課程編成委員会の意見検討を行い、そこで現れる業界ニーズに応えられる教育目標、育成人材像を設定している。	人材ニーズの変化や業界の変化、学生の特性等を考慮し、カリキュラムの再構築を行っている。運営会議・学科会議において運営状況をチェックする機能を持っている。
	3-13 修業年限に対応した教育到達レベルは明確にされているか	3	2.7	☐ 各学科の修業年限と就職で求められる力を勘案しカリキュラムを編成し、継続して働くことのできる力を身に着けることを第一に科目群を編成している。到達レベルは教育目標・学年目標・学期目標・科目目標を設定しレベルを満たしているかを図る定期試験を設定している。	目標を長期・短期で設定し目標に向けての目標設定を学生自らが設定するポートフォリオを活用している。学生が主体的に学習する動機づけをし学習成果に結び付けている。
	3-14 カリキュラムは体系的に編成されているか	3	3.0	☐ 学期毎に到達目標を設定している。 ☐ 要請目的、教育目標則している。 ☐ 資格取得にかかる担当教員を選任し、入学段階よりフロー教育プログラムにしている ☐ 資格取得のための対策講座と補習プログラムを確立している	学生の変化、業界の変化を察知し素早くカリキュラムイノベーションができる体制を整えている。
	3-15 学科の各科目は、カリキュラムの中で適正な位置付けをされているか	2	2.5	☐ 翌年の教育課程編成する際に学科長がカリキュラム会議を実施し、学校責任者が決裁している。 ☐ 教員・時間数は法定要件を満たした上で一般科目をバランス良く配分している。 ☐ 目標に沿ってシラバスを作成し学科が承認し、授業を運営している。 ☐ 到達目標の設定に基づき適切に授業形態を選択している。 ☐ 授業内容に適切にグループワークなどを取り入れて指導方法に変化を持たせている ☐ 年度ごとにカリキュラムを見直し改定を行っている。	☐ 業界の変化、学生の変化に応じたカリキュラム改定と教員の確保が重要。 ☐ 効果的なオンライン授業の活用や新しい教授法の開発など常にイノベーションを図ることが重要。
	3-16 キャリア教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法などが実施されているか	3	2.8	☐ 学園のキャリアロードマップに即し、社会人基礎力の醸成に努めている。 ☐ ポートフォリオの活用計画を作成し段階を追って活用している。	
	3-17 授業評価の実施・評価体制はあるか	3	3.0	☐ 授業アンケートを年間2回実施し、その都度担当講師にフィードバックを実施している。 ☐ 授業の集大成としての位置づけである、ベルエポックコンテストを業界のプロから審査していただいている。 ☐ 業界訪問を通して欲しい人材に照らし合わせて意見を頂いている。	
	3-18 育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	3	3.0	☐ 法定科目はコンプライアンスに沿って、一般科目は経験で選任している。	☐ 履歴書・資格書の提出を持って確認している。 ☐ 業界での経験を重視し適合しているかを確認している。 ☐ 業界講師や業界に人材の紹介を依頼している。
	3-19 教員の専門性を向上させる研修を行っているか	3	2.9	☐ 外部講師による研修と教育提携校の研修を受講している。 ☐ 学生指導、支援に関わる学園の研修を実施している。 ☐ 学園の階層別研修等に参加している。	☐ 学校として研修の優先順位は高い。

	3-20 成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	3	2.9	☐ 学則及び学則施行細則に明記し全学生に配布している。 ☐ 試験規定を作成しその基準に準拠し公正公平に評価している。また、進級や卒業については判定会議を実施している。 ☐ 学則に単位読み替えについて明分化している。	☐ 学生生活にかかる内規については、常に見直しが必要。
	3-21 資格取得の指導体制はあるか	3	3.0	☐ 業務役割分担表に担当スタッフを選任し、複数の担当教員と連携し、受験をマネジメントしている。	☐ 個々の成績をチェックし、下位層学生のフォローをしている。
4 教育成果	4-22 就職率(卒業者就職率・求職者就職率・専門就職率)の向上が図られているか	3	3.0	☐ 卒業年次生の担任と就職担当部門で随時連携体制を構築している。 ☐ 就職業務システムによりスマホからも情報チェックができる。 ☐ 就職セミナー・就職説明会を開催している。 ☐ 履歴書指導・面接指導は就職講座と個別指導で実践している。 ☐ 個別面談は随時行っており適切に対応している。	☐ 東京の姉妹校と求人情報共有し、東京や道外への就職支援を有効に実施している。
	4-23 資格取得率の向上が図られているか	2	2.5	☐ 資格所得目標を設定している。 ☐ 必修資格はカリキュラムに対策講座を組み込み、選択資格は放課後に対策授業を実施している。 ☐ 比較を行っており国家試験は全国でもトップクラスの合格率である。 ☐ 国家試験対策会議を定例で実施し改善を図りながら指導している。	☐ 国家試験対策センターと連携し、学生分析と問題解決を行っている。 ☐ 職員研修を実施し、毎年国家資格受験対策に関する総括、問題の洗い出しと対策立案を実施している。 ☐ グループ校の同学科で構成される教育部会を設置し、100%合格のための仕組み作りに全力を注いでいる。
	4-24 退学率の低減が図られているか	3	2.9	☐ 中途退学者の傾向・分析を毎年教務部長中心に総括している。 ☐ 学生指導の履歴を月2回状況表に記入し保存している。 ☐ SSCと連携し学生支援体制を構築している。 ☐ グループ校合同で学習支援センターを設置している。	課題を抱える学生に関しては、担任→学部長→教務部長→学校責任者と重層的に支援・指導体制を取っている。
	4-25 卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	2	2.3	☐ 卒業生の転職、再就職支援を行っている。 ☐ 同窓会と同時日程で講座を開講している。 ☐ コンテスト対策などの支援を行っている。	卒業後の離職調査をし、離職理由を分析し育成に取り入れている。 また、近年開業した卒業生の情報を集約し、HP等で紹介している。
	5-26 就職に関する体制は整備されているか	3	3.0	☐ 就職支援部門が求人をつとまとめ、組織体制を整備している。 ☐ 卒業年次生の担任と就職担当が随時連携体制を構築している。 ☐ 求人情報は常に閲覧可能な状態である。 ☐ 就職セミナー・就職説明会を開催している。 ☐ 履歴書指導・面接指導は就職講座と個別指導で実践している。 ☐ 個別面談は随時行っており適切に対応している。	フローでの就職支援の体制が構築されており、全体での就職活動における就職支援は適切に行われている。
	5-27 学生相談に関する体制は整備されているか	3	3.0	☐ 学生相談室を開設している。 ☐ 担任授業内やポスター・カードにより学生への案内している。 ☐ 相談記録は閲覧を制限する形で保存している。	全教職員が「JESCカウンセラー資格」を取得している。

5	学 生 支 援	5-28 学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	3	3.0	☐ 募集要項に減免制度を明記し運用している。 ☐ 公的支援制度を適切に活用し適切に利用するように学生指導している。 ☐ 学生・父母に適宜文書と口頭で情報提供している	☐ 高等教育機関の修学支援対象校である。 ☐ 合理的配慮義務化にともなう対応や、制度の学内周知が重要となる。
		5-29 学生の健康管理を担う組織体制はあるか	3	2.8	☐ 法定健康診断実施し、有所見者の再健診を徹底している。 ☐ 学校医を選任している。 ☐ 定期検診・再検診について適切に対応している。 ☐ 校内に医務室を設置し、応急的な措置ができるようにしている。	☐ 健康診断の一次検診で問題が発見された学生は、二次検診を受診させており、更に判定内容によっては、一般的なレベルよりも高いレベルで治療を義務付けている。 ☐ 二次検診の受診完了までの時間を早めることが課題である。
		5-30 課外活動に対する支援体制は整備されているか	2	2.4	☐ クラブ活動はないが、放課後練習の課外活動を支援している。 ☐ 接客スキルとサービスマインドを体験を通して学ぶ「学生スタッフ」活動を組織し運営している。	☐ 外部イベントや他校学園祭への積極的な出展を推進している。
		5-31 学生寮等、学生の生活環境への支援は行われているか	3	2.9	☐ 学生寮を整備している ☐ 寮長とは連携をとっており必要事項の共有を行っている	☐ 適宜連携をとり、学生の状況把握に努めている。
		5-32 保護者と適切に連携しているか	3	3.0	☐ 保護者会を開催している。 ☐ 学生が作ったスイーツ、料理を販売するワンハートサービスを保護者向けにも実施している。 ☐ 必要に応じて保護者に連絡し面談の内容の記録は保存している	
		5-33 卒業生への支援体制はあるか	2	2.4	☐ 卒業生の転職、再就職支援を行っている。 ☐ 同窓会と同時日程で講座を開講している。 ☐ コンテスト対策などの支援を行っている。 ☐ 卒業生へも実習室等の施設を開放している。	☐ 卒業後1年以内の離職0%を目指し、卒業生の離職率の低減を図ることが今後の課題である。
6	教 育 環 境	6-34 施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	3	2.9	☐ 施設設備は毎年整備し且つ法令も遵守している ☐ 休憩の学生ホールを整備しまた、昼食の教室を時間割に明記している ☐ バリアフリー構造にしている ☐ 手洗いは常に行い食中毒などの感染症の予防に努めている ☐ 施設設備の点検は専門の業者に委託し不具合箇所は都度対応している ☐ 年度毎に不具合箇所を洗い出し改築・改修を行っている	☐ 施設・設備のメンテナンスは専門のグループ企業が担当している。施設管理専門スタッフが常駐し、日々校舎のメンテナンスを行う体制となっており、学生の教育環境の維持に努力している。
		6-35 学外実習、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	2	2.3	☐ 教育、就職スケジュールの中で重要性や意義、目的を明確にしている。 ☐ 企画書、実習ノートを整備し適切に運用している。 ☐ 現場力育成の定義に則り5段階で評価していただき、規定日数の実習実施と報告書の提出を持って評価している。 ☐ 各実習先に担当の教職員が実習期間中に訪問している。 ☐ 評価表と実習日誌の表記内容を確認し、教育効果を確認している。 ☐ 学生が自ら考える機会を考慮し、行事に参画させている。	☐ 海外との教育機関や海外で活躍する卒業生からの特別授業を実施している。 ☐ フランス人講師イタリア人講師がおり、恒常的に国際教育を実践している。 ☐ コロナ禍により海外研修を自粛していたが、次年度からは再開できる見込みである。

	6-36 防災に対する体制は整備されているか	2	2.3	☐ 学園より学生・職員に対しての危機管理マニュアルの配布し施設内に避難誘導図の掲示し整備を行っている。 ☐ 耐震構造の建物である。定期的に点検し改善を行っている。 ☐ 避難訓練を実施している。	☐ 危機管理マニュアルを改定し、職員への周知を実施する。
7 学 生 の 募 集 と 受 け 入 れ	7-37 学生募集活動は、適正に行われているか	3	3.0	☐ 適切な募集活動を行なっている。 ☐ オープンキャンパスを開催し、常に来校して相談できる環境を整えている。全教職員に対して広報に関する勉強会を実施し、誰でも対応できる体制にしている。 ☐ 学校案内等において具体的な就職データ、資格取得データを明記し、正確に情報を伝えている。 ☐ 校内に個人情報保護委員会を設置し、管理と研修の徹底を図っており、日本プライバシー認証機構の個人情報管理者研修プログラムのライセンスを取得している。	☐ 次年度からはネットでのAOエントリー、出願に移行する。 ☐ 北海道進路センターが開設され、センターと連携し高校訪問、地方への出張オープンキャンパス、ガイダンスを実施している。
	7-38 学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	3	3.0	☐ ホームページ、学校案内等において具体的な就職データ、資格取得データを明記し、正確に情報を伝えている。	☐ 各時期で実施している入学試験の各データを管理、分析しており入学者の傾向や対策を講じることで入学試験の対策として活用している。また、出願率や入学者数の予測管理から財務計画を策定している。
	7-39 入学選考は、適正かつ公平な基準に基づき行われているか	3	2.8	☐ 入学選考基準・方法は学則及び募集要項に明記している。 ☐ 入学選考会議を実施し、公正公平な合否判断をしている。	
	7-40 学納金は妥当なものとなっているか	3	2.8	☐ 学納金は適正かつ妥当なものと考えており、その納付金額、方法に関する情報も適正に行っている。 ☐ 入学辞退に関しては募集年度の3月末までに辞退意志の明示があった場合は入学金を除く全額返金している。	☐ 日本学生支援機構の予約採用、州が支援対象校である等のアナウンスや教育ローンの案内をするなど、学費負担者の立場に立ってのアドバイスを実施している。
8 財 務	8-41 中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	3	3.0	☐ 5か年の中長期的事業計画を立て、その中で収支計画を作成している。5か年計画を立てることによって、短期的 視点だけではなく中長期的な視点に立って学校運営を計画することになる。	
	8-42 主要な財務数値に関する分析を行っているか	3	3.0	☐ 現年度の収支に関しては、数値を一ヶ月ごとに算定し、学園本部によるチェックがあり適正な予算管理がされている。	☐ 学園の財務部門と連携している。
	8-43 教育目標との整合性を図り、単年度予算、中期計画を策定しているか	3	3.0	☐ 5ヶ年計画を策定し、各年度の実績と対比し、課題発見、改善計画に繋がられるよう、学園本部と連携を図っている。	
	8-44 予算計画に基づいた適正な執行管理ができているか	3	3.0	☐ キャッシュフローに基づいた学校運営を重視しており、経費予算のみでなく施設設備支出、借入金返済等を考慮した資金収支の予算も作成している。	☐ 学園の財務部門と連携している。

	8-45 私立学校法および寄付行為に基づき適切に監査を実施しているか	3	3.0	☐ 学校法人滋慶学園は公認会計士による監査と監事による監査を実施し、その結果を監査報告書に記載し、理事会及び評議員会においてその報告をしている。	
	8-46 私立学校法に基づく財務公開体制を整備し、適切に運用しているか	3	3.0	☐ 私立学校法に基づく財務情報公開体制が整備されている。 ☐ 財務公開の実績を残している。 ☐ 財務情報はホームページで公開している。	
9 法令等の遵守	9-47 法令、設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	3	3.0	☐ 法人において、法令や設置基準の遵守に対する方針を「コンプライアンス推進規程」として整備し、届出等を適切に実施しているが、担当者の異動による引継ぎが課題である。 ☐ ハラスメント防止に関する規定を就業規則に明記している。 ☐ 法令順守に関する教育を実施している。	☐ 学内では学生支援センターがコンプライアンスを担う部署として学園総務部門と連携を密にしている。 ☐ マネージャーを中心に学園のハラスメント研修を受けている。
	9-48 個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	2	2.7	☐ 個人情報、校内に個人情報保護委員会を設置し、厳重に管理し、研修の徹底を図っている。 ☐ サイトの運用にあたっては、TRUSTeプライバシー・プログラムのライセンスを取得し、適正に行なわれている。 ☐ 教職員に対しては、就業規則等にも個人情報保護を明記すると共に、定期的な教育・研修を実施している	☐ 全教職員はJ-PACより年に一度個人情報保護研修を受けいる。 ☐ 個人情報書類のデータ化が課題。
	9-49 自己点検・自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	2	2.4	☐ 自己点検・自己評価に関しては、開校以来、毎年度末に事業計画に基づいた総括を実施し、収支バランスや、教育力、就職力、広報力について数字結果から点検を実施し、問題発見できたことは、次年度の課題として引継ぎ、その課題を克服する事業計画を作成し、その改善に努めている。	
	9-50 自己点検・自己評価結果を公開しているか	3	2.9	☐ 自己点検・自己評価の情報公開については、学校ホームページに「情報公開」というページを作り、公開している。	☐ 情報公開アドレス（本校HP） http://www.foods.belle.ac.jp/about/jyouhou
	9-51 学校関係者評価の実施体制を整備し評価を行っているか	3	3.0	☐ 職業実践専門課程の認定を受けており、学校関係者評価の目的や意義について理解している。	☐ 学校関係者評価は教職員全体で共有し、改善が必要な事項については対策をたて取り組んでいる。
	9-52 学校関係者評価を公開しているか	3	3.0	☐ 評価の結果をまとめ、HPにも公表している。	☐ 情報公開アドレス（本校HP） http://www.foods.belle.ac.jp/about/jyouhou
	9-53 教育情報に関する情報公開を積極的に行っているか	3	3.0	☐ HP上のみならず学校案内にも掲載して教育内容を紹介している。	☐ 情報公開アドレス（本校HP） http://www.foods.belle.ac.jp/about/jyouhou
10 社会貢献	10-54 学校の教育資源や施設を活用した社会貢献を行っているか	2	3.0	☐ 学園のミッションに「業界の信頼」「地域の信頼」「業界の信頼」を掲げており、学校をあげて積極的に取り組んでいる。 ☐ 北海道・別海町とのホタテを使ったレシピ開発、羽幌町の甘エビ普及活動などの実績があり今後も継続していく。 ☐ 地域へは学内販売実習でケーキ販売等で開放。 ☐ 中学・高校生の総合学習での授業を実施している。 ☐ 北海道私立専修学校各種学校連合会が主催する「北海道まちかど学園」の講座として登録している。 ☐ 小学生向けのお菓子旁教室を実施している。	
	10-55 国際交流に取り組んでいるか	3	2.9	☐ 建学理念の一つに『国際教育』を掲げており、学園を上げて国際交流に取り組んでいる。カリキュラムにも反映させ、留学生の受入れも積極的に実施している。	

	10-56 学生のボランティア活動を 奨励、支援しているか	3	2.9	☐ ボランティア活動は授業の一環でまたは課外活動の一環として実践して いる。	☐ 次年度は全学科、学年で地域清掃を年間スケジュールに組み込み実施 予定。
--	-------------------------------------	---	-----	--	---